授業計画書（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	健康科学	
実務家教員授業		
学部・学科	こども保育学科	
履修年次	１年次	
開講学期	前期	
科目区分	必修	
授業方法	講義	
授業時間	１５時間	
授業回数	８回	
授業概要	生活習慣と環境との相互作用が、健康状態に与える影響を学ぶ。また、スポーツを文化的視点、生物学的視点、運動学的視点等の様々な視点で捉えることにより、自己の健康・体力づくり及び豊かなライフスタイルについての見識を身につける。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。	
達成目標	生活習慣と健康状態について理解し、日常生活において必要な運動を理解する。	
教科書	新健康学　（株）みらい	
特記		
授業計画	1	より豊かな健康を求めて
	2	食生活と健康①
	3	食生活と健康②、疾病と生活習慣病
	4	アルコールと健康、たばこと健康
	5	健康の維持・増進のための運動の処方
	6	運動の効果と積極的休養
	7	生活と健康
	8	復習（食生活と健康、運動と健康）
	9	
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	
成績評価方法 （試験実施方法）	出席と試験により評価する。	
備考		

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	スポーツ（実技）
実務家教員授業	
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	実技
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	バレーボール、バドミントン、バスケットボール、ダンス等のスポーツ実技を通じ、各種スポーツ能力の向上、更には自己の健康・体力を適切に管理できる能力を養う。また、縄跳び、マット運動等の幼児期に必要な運動能力などについても学ぶ。
授業の進め方	有識者の指導のもと、身体を動かしながら学ぶ。
達成目標	各種スポーツを通して運動能力の向上及び幼児期における運動体験を理解する。
教科書	新健康学　（株）みらい
特記	
授業計画	1 スポーツ体験① 2 スポーツ体験② 3 スポーツ体験③ 4 チーム対抗スポーツ① 5 チーム対抗スポーツ② 6 チーム対抗スポーツ③ 7 幼児期の保育現場で必要とされる運動① 8 幼児期の保育現場で必要とされる運動② 9 幼児期の保育現場で必要とされる運動③ 10 幼児期に必要な運動体験の復習 11 保育現場で多く使用する動き・表現① 12 保育現場で多く使用する動き・表現② 13 保育現場で多く使用する動き・表現③ 14 グループの研究に基づく運動表現の発表① 15 グループの研究に基づく運動表現の発表①
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と実技試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	英語コミュニケーションⅠ
実務家教員授業	
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	通年
科目区分	選択
授業方法	演習
授業時間	６０時間
授業回数	３０回
授業概要	基本的な英語力として、基礎的な単語力、文法力を習得し、reading及びwritingの力及び日常生活における基本的な会話力を身に付ける。また、会話に頻繁に使用される基本動詞の活用法を習得することにより、基本的な英語表現を習得する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	保育現場で使える基本的英語力を身につける。
教科書	保育の英会話　（株）萌文書林
特記	
授業計画	1 保育の英会話への第一歩 2 自己紹介・園に関する単語マスター 3 基本的な英会話（あいさつ等） 4 基本的な英会話（相手を知る質問） 5 時間と数 6 保育に関する英単語（持ち物） 7 地図に関する英単語 8 基本的な英会話（道順の説明・案内方法） 9 基本的な英会話（こどもの紹介・遊びへ誘う） 10 園庭の遊具・遊びの動作表現方法 11 基本的な英会話（登園時、降園時） 12 感情を表す単語・熟語 13 こどもの状態を表す熟語・お片づけの歌 14 保育の仕事を記録する英語表現 15 折り紙・子守唄を英語で表現 16 食事に関する英単語・表現 17 排泄・連絡帳に関する英単語・表現 18 英文法（連絡帳でのｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ） 19 喧嘩の対応・文房具の英単語 20 身体の部位の英単語・命令文 21 けが・病気に関する英単語・熟語 22 医療機関・応急処置に関する表現方法 23 基本的な英会話（電話対応・園行事） 24 リスニング 25 遠足・その他園行事に関する英単語 26 If文の表現 27 乳児への言葉かけ・育児用品の英単語 28 乳児の成長と発達に関する英語表現 29 基本的な英会話（卒園・祝福と感謝の言葉） 30 記念日・家族の続柄を表す英単語
成績評価方法 （試験実施方法）	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	一般教養
実務家教員授業	
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	前期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	国語を中心として、手紙・ビジネス文書の書き方、漢字の練習、話し方、敬語の使い方等を学習し、読解力・作文能力を養い、社会人として、また保育士として正しい日本語の使い方を習得する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	社会人として必要とされる一般教養の習得及び言葉遣いができるようにする。
教科書	漢字能力検定試験　対策問題集３級　JAB　　就職ガイドブック
特記	
授業計画	1 漢字の練習① 2 敬語の遣い方① 3 敬語の遣い方② 4 ビジネス文章の書き方 5 手紙の書き方 6 漢字の練習② 7 文章の読み取り（保育時事）① 8 文章の読み取り（保育時事）② 9 文章の読み取り（保育時事）③ 10 社会人としての話し方スキル① 11 社会人としての話し方スキル② 12 社会人としての話し方スキル③ 13 漢字の練習③ 14 漢字の練習④ 15 復習（漢字・敬語の文章読解）
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	ビジネス教養
実務家教員授業	
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	後期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	公務員試験または民間企業における入社試験などに対応できる一般知能科目を中心とした基礎学力の習得を図る。また、適性検査や面接などの対策なども行う。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	社会人として求められる基本的なスキル及び一般常識を習得する。
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	1 敬語の遣い方① 2 敬語の遣い方② 3 敬語の遣い方③ 4 ビジネスマナー① 5 ビジネスマナー② 6 ビジネスマナー③ 7 コミュニケーション① 8 コミュニケーション② 9 自己表現① 10 自己表現② 11 一般常識支援① 12 一般常識支援② 13 一般常識支援③ 14 就職面接質疑応答対策① 15 就職面接質疑応答対策②
成績評価方法 （試験実施方法）	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	情報リテラシーと処理技術	
実務家教員授業		
学部・学科	こども保育学科	
履修年次	１年次	
開講学期	通年	
科目区分	選択	
授業方法	演習	
授業時間	６０時間	
授業回数	３０回	
授業概要	パソコン（Word・Excel）の基本知識及び基本的操作技術を習得し、業務における様々な目的に応じて、柔軟かつ効率良く対処できる能力を習得する。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識・スキルの定着を図る。	
達成目標	基本的なパソコンスキル及びビジネスソフト（Word、Excel)の操作方法を習得する。	
教科書	PCP　パソコン実習	
特記		
授業計画	1	インターネットの利用法、ネチケットについて
	2	文書の作成と管理
	3	一般的なビジネス文書の作成①
	4	一般的なビジネス文書の作成②
	5	シンプルなレポートや報告書の作成
	6	表で項目や数値を整理した文書の作成①
	7	表で項目や数値を整理した文書の作成②
	8	ビジネス文書の作成方法の復習
	9	イラストや図形を使ったビジュアルな文書の作成①
	10	イラストや図形を使ったビジュアルな文書の作成②
	11	イラストや図形を使ったビジュアルな文書の作成③
	12	ビジュアルな文書の作成方法の復習
	13	課題作成①（ビジネス文書）
	14	課題作成②（ビジネス文書・園だより）
	15	課題作成③（ビジネス文書・園だより）
	16	表作成の基本操作①
	17	表作成の基本操作②
	18	表を見やすく使いやすくする編集操作①
	19	表を見やすく使いやすくする編集操作②
	20	数式・関数を活用した集計表の作成①
	21	数式・関数を活用した集計表の作成②
	22	数式・関数を活用した集計表の作成③
	23	表作成・関数の復習
	24	ワークシート間の集計
	25	グラフの基本
	26	目的に応じたグラフの作成と編集①
	27	目的に応じたグラフの作成と編集②
	28	データベース機能の利用①
	29	データベース機能の利用②
	30	グラフ作成・データベース機能の復習
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と課題提出、試験により評価する。	
備考		

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	憲法
実務家教員授業	
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	後期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	日本国憲法の意義、特質を理解し、基本原理について学ぶ。なかでも基本的人権と統治機構について理解を深め、日本国憲法の全体像について学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により知識の定着を図る。
達成目標	日本国憲法の意義や原理を理解する。
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	1 憲法の概念、分類 2 日本国憲法の特徴 3 人権と公共の福祉 4 基本的人権①（包括的基本権） 5 復習（憲法の概念、特徴、歴史） 6 基本的人権②（精神的自由権） 7 基本的人権③（経済的自由権） 8 基本的人権④（社会権・生存権・その他権利） 9 復習（基本的人権） 10 統治機構、国会①（国会の地位） 11 国会②（構成、活動、権能、議員の権能・特権） 12 内閣の地位、組織、職務 13 司法権の意味、限界 14 司法権の帰属、独立 15 復習（統治機構）
成績評価方法 （試験実施方法）	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	保育原理
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	保育者となるための基本的な考えを総合的に学習する。保育の意義及び目的を理解するとともに、保育に関する法令及び制度、保育所保育指針における保育の基本について理解を深め、保育の現状と課題を理解する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	保育を取り巻く環境及び意義や保育者として求められる多様な役割を理解し、心構えや保育観を身につける。
教科書	第1巻　保育原理（全国社会福祉協議会）
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者。
授業計画	1 保育の意義及び目的 2 保育、教育施設における保育 3 保育の思想と歴史 4 子どもの最善の利益と保育 5 保育所保育指針に学ぶ保育原理 6 保育の計画と保育の質の向上 7 子どもの家庭福祉と保育 8 保育に関する法令・制度 9 多様化する保育ニーズ 10 保育における記録の重要性 11 保育に求められる姿・あり方 12 保育の思想・歴史を学ぶ（日本及び諸外国） 13 保育の現状と今後の課題 14 保育者の専門性の向上に向けた取り組み① 15 保育者の専門性の向上に向けた取り組み②
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	保育原理Ⅱ
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	前期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	保育原理で学んだ保育に関する基礎的事項や概念を踏まえつつ、保育内容の構造や様々な保育形態について具体的に学ぶ。また、海外の保育実践の内容についても学びながら、我が国の保育を模索していく上で必要な視点について学習する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	保育を取り巻く環境及び意義や保育者として求められる多様な役割を理解し、心構えや保育観を身につける。
教科書	第1巻　保育原理（全国社会福祉協議会） 保育所保育指針解説（フレーベル館）
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者。
授業計画	1 子どもの最善の利益について考える① 2 子どもの最善の利益について考える②（個人研究） 3 子どもの最善の利益について考える③（グループ討議） 4 保育の社会的役割を理解する① 5 保育の社会的役割を理解する②（個人研究） 6 保育の社会的役割を理解する③（グループ討議） 7 保育に関する法令及び制度について考える① 8 保育に関する法令及び制度について考える② 9 保育所保育指針における保育の基本の理解① 10 保育所保育指針における保育の基本の理解② 11 保育の現状と課題について考える① 12 保育の現状と課題について考える②（個人研究） 13 保育の現状と課題について考える③（グループ討議） 14 専門職としての目標と課題① 15 専門職としての目標と課題②
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	子ども家庭福祉
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	現代社会において子どもがおかれている現状を把握するとともに、現在の子ども家庭福祉の制度及びその役割を体系的に理解する。また、子どもの人権、子どもをとりまく環境、子ども家庭福祉に係る援助活動について理解する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	子ども家庭福祉の現状を理解し、保育者及び周辺職種の役割を理解する。
教科書	第3巻　子ども家庭福祉（全国社会福祉協議会）
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者
授業計画	1 現代社会と子ども家庭福祉 2 子どもの人権擁護の理解 3 子どもの家庭福祉の歴史的変遷 4 子ども家庭福祉の成立と展開 5 子ども家庭福祉の法体系、行財政 6 子ども家庭福祉の関連機関、施設 7 子育て支援・次世代育成支援と保育施策 8 母子保健施策とひとり親家庭への福祉施策 9 子ども虐待・DV問題の防止施策 10 社会的養護を必要とする子どもへの福祉施策 11 障害がある子どもへの福祉施策 12 心理治療の必要性や非行問題を抱える子どもへの支援 13 貧困家庭、外国籍の子どもとその過程への対応 14 子ども福祉専門職に必要とされる専門知識と技術 15 子ども家庭福祉の動向と展望
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	子ども家庭福祉Ⅱ
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	後期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	児童福祉に関する歴史的変遷と今日的課題について諸制度を踏まえながら、更に深く理解する。また、子どもの文化の変化について、遊びの変化、道具の変化を通じて個の発達及び子どもの集団の発達について思考し、児童文化の観点から捉えていく。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	子ども家庭福祉の現状を再確認し、保育の現状と課題を考察する。
教科書	第3巻　子ども家庭福祉（全国社会福祉協議会）
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者
授業計画	1 子ども家庭福祉の歴史を理解する① 2 子ども家庭福祉の歴史を理解する② 3 子ども文化の変化について① 4 子ども文化の変化について② 5 子ども文化の今日的課題① 6 子ども文化の今日的課題② 7 子どもの遊びの変化について① 8 子どもの遊びの変化について② 9 子ども文化における道具の変化① 10 子ども文化における道具の変化② 11 子どもの個の発達及び集団の発達① 12 子どもの個の発達及び集団の発達② 13 児童文化の中の子ども集団① 14 児童文化の中の子ども集団② 15 復習（児童家庭福祉と子どもの文化）
成績評価方法 （試験実施方法）	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	社会福祉
実務家教員授業	
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	社会福祉の理念の理解をもとに、わが国の社会福祉の体系、相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。また、社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解を深める。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	社会福祉について現状及び課題への理解を深める。
教科書	第4巻　社会福祉（全国社会福祉協議会）
特記	
授業計画	1 保育と社会福祉 2 高度成長と社会福祉 3 社会福祉の意味と考え方 4 社会福祉の実態体制と財源 5 生存権と社会保障制度と児童の人権擁護 6 生活保護制度の意味と内容 7 社会福祉における相談援助 8 保育士とソーシャルワーク 9 子どもの家庭福祉について 10 障害をもつ人の福祉について 11 高齢者の福祉について 12 地域福祉について 13 社会福祉の専門職と倫理 14 利用者の権利擁護とサービスの質、第三者評価、苦情解決について 15 社会福祉の動向と課題
成績評価方法 （試験実施方法）	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	社会的養護Ⅰ
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	現代社会における社会的養護の理念と概念や歴史的変遷について理解し、子どもの人権擁護をふまえた社会的養護の基本について学習する。また、社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	社会的養護及び子どもの人権、権利について理解する。
教科書	第5巻　社会的養護と障害児保育（全国社会福祉協議会）
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者
授業計画	1 社会的養護の理解と概念 2 社会的養護の歴史的変遷 3 子どもの人権擁護と社会的養護 4 社会的養護の基本原則 5 社会的養護における保育士等の倫理と責務 6 社会的養護の制度と法体系 7 社会的養護のの仕組みと実施体系 8 社会的養護のとファミリーソーシャルワーク 9 社会的養護の対象 10 家庭養護と施設養護 11 社会的養護に関わる専門職 12 社会的養護に関する社会的状況 13 施設等の運営管理 14 被措置児童等の虐待防止 15 社会的養護と地域福祉
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	保育者論
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	保育士として欠くことのできない資質能力や保育士の制度的な位置付けを理解する。また、保育者の役割や倫理、専門性を考察するとともに専門職間及び専門機関との連携、保護者や地域社会との連携・協働についても理解を深める。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	保育者としての役割、倫理、専門性を理解する。
教科書	第9巻　保育専門職と保育実践（全国社会福祉協議会）
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者
授業計画	1 保育者、子どもの視点から見る保育（者） 2 保育者の仕事と役割・職務内容・倫理 3 保育士になるための学び及び児童福祉法における位置づけ 4 保育士に求められる資質・能力について 5 保育士の専門性及びﾒﾝﾀﾘﾝｸﾞ・ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ 6 子どもの育ちと子育て支援①（環境と育ちの変化） 7 子どもの育ちと子育て支援②（専門機関における支援及び連携と協働） 8 子どもの育ちと子育て支援③（子育て支援ネットワーク） 9 他職種や地域・保護者との連携・協働 10 母子・父子家庭、母子保健問題と福祉施策現代社会の変化と保育者の連携・協働 11 保育者の職務と保育者の倫理観 12 日本の保育の変遷 13 保育者としての在り方 14 社会の変化と保育者の役割 15 保育者の資質向上とキャリア形成
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	保育の心理学
実務家教員授業	
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解し、子どもへの理解を深める。養護及び教育の一体性、発達に即した援助を学び、乳幼児期の子どもの学びの過程、特性を踏まえた人との相互的関わりや体験、環境の意義を学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	子どもの発達にかかわる心理に関する基礎知識を習得し、学びの課程や特性により人とのかかわりの重要性について理解する。
教科書	第6巻　子どもの発達理解と援助（全国社会福祉協議会）
特記	
授業計画	1 子どもの発達を理解することの意義 2 子どもの発達と環境 3 発達理論と子ども観・保育観 4 保育実践を評価する 5 社会情動的発達①自我 6 社会情動的発達②他者 7 社会情動的発達③他者とのかかわり 8 身体的機能と運動機能の発達 9 認知の発達 10 数の認識の発達 11 言語の発達 12 乳幼児期の学びに関わる理論 13 乳幼児期の学びの過程と特性①社会情動的学び 14 乳幼児期の学びの過程と特性②認知的学び 15 乳幼児期の学びを支える保育
成績評価方法 （試験実施方法）	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	子ども家庭支援の心理学
実務家教員授業	
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	生涯発達に関する心理学の基本的な知識を習得し初期経験の重要性や発達課題等について理解する。また、家族・家庭の意義と機能、子育て家庭を取り巻く社会状況、子どもの精神保健とその課題について理解する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	生涯発達や子育て家庭を取り巻く社会状況を理解する。
教科書	第6巻　子どもの発達理解と援助（全国社会福祉協議会）
特記	
授業計画	1 乳児期の発達 2 幼児期の発達 3 学童期の発達 4 青年期の発達 5 成人期・中年期の発達 6 高齢期の発達 7 家族・家庭の意義と機能 8 家族関係・親子関係の理解 9 子育ての経験と親としての育ち 10 子育てを取り巻く社会的状況 11 ライフコースと仕事・子育て 12 多様な家庭とその理解 13 特別な配慮を要する家庭 14 子どもの生活・生育環境とその影響 15 子どもの心の健康に関わる問題
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	子どもの理解と援助
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	子どもを理解するための具体的方法や保育士としての援助や態度の基本について理解する。保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	子どもの発達の状況に応じた保育実践について理解する。
教科書	第6巻　子どもの発達理解と援助（全国社会福祉協議会）
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者
授業計画	1 保育における子どもの理解 2 子どもに対する関わりと共感的理解 3 子どもの生活や遊び 4 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達 5 子ども相互の関わりと関係づくり 6 集団における経験と育ち 7 発達における葛藤やつまずき 8 保育の環境の理解と構成 9 環境の変化や移行 10 子ども理解のための観察・記録と省察・評価 11 子ども理解のための職員間の対話 12 子ども理解のための保護者との情報共有 13 発達の課題に応じた援助と関わり 14 特別な配慮を要する子どもの理解と援助 15 発達の連続性と就学への支援
成績評価方法 （試験実施方法）	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	子どもの保健
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	子どもの身体的な発育・発達と健康について理解する。また、子どもの健康管理のために、医学的な基礎知識を理解するとともに、疾病への適切な対応やその予防対策、他職種間の連携・協働について理解を深める。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	子どもの身体発育及び生理機能、運動機能、精神機能の理解及び環境、衛生管理を理解する。
教科書	第7巻　子どもの健康と安全（全国社会福祉協議会）
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者
授業計画	1 子どもの保健の意義と目的 2 身体の発育と発達 3 生理機能、運動機能の発達と保健 4 子どもの精神（こころ）の保健 5 子どもを取り巻く生活環境と心身の保健 6 現代社会における子どもの精神の健康とその課題 7 乳児期・幼児期の栄養 8 子どもの病気と異常　先天性・新生児 9 子どもの病気と異常　先天性・新生児② 10 子どもによくみられる症状とその対処法① 11 子どもによくみられる症状とその対処法② 12 子どもの病気予防 13 緊急時の対応法 14 施設等における健康と安全実施体制 15 母子保健行政
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	保育内容総論
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	保育所保育指針における「保育の目標」、「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」「保育の内容」に関連付けて保育内容を理解するとともに、保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	子どもの特性や発達過程、養護と教育について理解し、保育での展開について学ぶ。
教科書	第9巻　保育専門職と保育実践（全国社会福祉協議会）
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者
授業計画	1 子どもを取り巻く社会環境の変化と保育内容 2 保育内容の歴史的変遷とその社会背景 3 保育所保育指針に基づく保育内容理解（0～2歳児の保育内容と展開） 4 保育所保育指針に基づく保育内容理解（4・5歳児の保育内容と展開） 5 異年齢児・家庭・地域・小学校との連携 6 養護と教育の一体的保育について 7 子どもの主体性を尊重する保育とは 8 具体的な保育実践からの保育内容理解（園行事についての計画①） 9 具体的な保育実践からの保育内容理解（園行事についての計画②） 10 具体的な保育実践からの保育内容理解（園行事についての計画③発表） 11 保育内容と展開（オペレッタを通して学ぶ） 12 保育内容と展開（オペレッタを通して学ぶ） 13 我が国における保育内容の歴史的変遷 14 保育の多様な展開と今後の課題 15 保育内容と子どもの理解
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と実技試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	保育内容（健康）
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	乳幼児の健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」について学ぶ。乳幼児期の子どもの心身の発育・発達の基礎として何が必要であるか、そして発育・発達のために保育者としてどのように援助するべきかについての視点とかかわり方を演習を通して具体的に学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	健康に関する保育内容について理解及び実践を行う。
教科書	保育所保育指針解説（フレーベル館）
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者
授業計画	1 保育所保育指針「保育の目標」と領域「健康」のねらい及び内容 2 発育・発達援助①（体を使って遊ぶー新聞紙遊び） 3 保育所保育指針のねらい及び内容（1歳以上３歳未満児） 4 保育所保育指針のねらい及び内容（３歳以上児） 5 食育の基本、計画、環境 6 食育の推進（手遊び、発表）戸外遊び 7 保育所保育指針における乳児保育の３つの視点と領域「健康」 8 子どもの健康支援（発達状態の把握） 9 子どもの健康支援（健康増進・疾病への対応）体操 10 発育・発達援助②　（体操ーラジオ体操・ディズニー体操） 11 発育・発達援助③（室内遊び） 12 環境及び衛生管理（温度・室温等） 13 食育・食物アレルギーへの対応 14 事故防止及び安全 15 保育所保育指針　領域「健康」総括
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	保育内容（人間関係）
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	乳幼児が他の人々と親しみ支え合って生活するために、自立心を育て人とかわる力を養う領域「人間関係」について学ぶ。演習を通して乳幼児の遊びや生活全体を通して「豊かな人間関係」や「身近な人と気持ちが通じ合う心」を育むための保育士の留意点や配慮すべき事項を学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	領域「人間関係」に関する保育内容について理解及び実践を行う。
教科書	保育所保育指針解説（フレーベル館）
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者
授業計画	1 保育所保育指針「保育の目標」と領域「人間関係」のねらい及び内容 2 保育所保育指針のねらい及び内容（1歳以上３歳未満児） 3 保育所保育指針のねらい及び内容（３歳以上児） 4 保育所保育指針における乳児保育の３つの視点と領域「人間関係」 5 領域「人間関係」事例研究①　保育所で行われる誕生会について 6 領域「人間関係」事例研究②　誕生会の歌について 7 領域「人間関係」事例研究③　集団 8 領域「人間関係」事例研究④　個人 9 遊びを通した人間関係理解①　（室内遊びの実践と記録①） 10 遊びを通した人間関係理解②　（室内遊びの振り返りと発表） 11 遊びを通した人間関係理解③　（伝承遊びの実践と記録） 12 遊びを通した人間関係理解④　（伝承遊びの振り返りと発表） 13 遊びを通した人間関係理解⑤　（室内遊びの実践と記録②） 14 遊びを通した人間関係理解⑥　（室内遊び②振り返りと発表） 15 保育所保育指針　領域「人間関係」総括
成績評価方法 （試験実施方法）	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	保育内容（環境）
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	乳幼児が周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持ってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う領域「環境」について学ぶ。乳幼児が遊びを通して環境と主体的・直接的に関わることにより、生きる力を獲得していくことを理解し、その環境の中で子どもの遊びとは何か、を学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	子どもの環境に関する保育内容について理解及び実践を行う。
教科書	保育所保育指針解説（フレーベル館）
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者
授業計画	1 保育所保育指針「保育の目標」と領域「環境」のねらい及び内容 2 保育所保育指針のねらい及び内容（1歳以上３歳未満児） 3 保育所保育指針のねらい及び内容（３歳以上児） 4 保育所保育指針における乳児保育の３つの視点と領域「人間関係」 5 室内における子どもの環境設定と援助① 6 室内における子どもの環境設定と援助② 7 遊びにおける子どもの環境設定と援助① 8 遊びにおける子どもの環境設定と援助② 9 遊びにおける子どもの環境設定と援助③ 10 行事における子どもの環境設定と援助① 11 行事における子どもの環境設定と援助② 12 行事における子どもの環境設定と援助③ 13 子どもの環境設定と援助①（季節） 14 子どもの環境設定と援助②（季節） 15 保育所保育指針　領域「環境」総括グループ討議
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	保育内容（言葉）
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	乳幼児が経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う領域「言葉」について学ぶ。そして乳幼児が園生活を通して豊かな言葉を獲得していくためには、保育者がどのように援助し役割を果たせばよいかを、演習を通して考える。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	言葉に関する保育内容について理解及び実践を行う。
教科書	保育所保育指針解説（フレーベル館）
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者
授業計画	1 保育所保育指針「保育の目標」と領域「言葉」のねらい及び内容 2 言葉の発達と影響　紙芝居の選び方・読み聞かせ方について 3 保育所保育指針「言葉」内容③④⑤　手遊びについて 4 紙芝居読み聞かせ実践練習 5 言葉遊びと支援方法①　買い物ごっこ（グループ決定・企画） 6 言葉遊びと支援方法②　買い物ごっこ（店づくり） 7 言葉遊びと支援方法③　買い物ごっこ（発表）振り返り 8 絵本の選び方・読み聞かせ方について 9 保育所保育指針「言葉」内容⑥⑦⑧　手遊び実践 10 保育所保育指針「言葉」内容⑨⑩　手遊び実践 11 保育所保育指針「言葉」内容⑫⑬　手遊び・絵本実践練習 12 乳幼児の言葉の獲得について①　絵本読み聞かせ　実践練習 13 文字から受ける言葉の影響 14 乳幼児の言葉の獲得について②　絵本読み聞かせ　実践練習 15 乳幼児の言葉の獲得について③　絵本読み聞かせ　実践練習
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と実技試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	保育内容（表現）
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	乳幼児が感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする領域「表現」について学ぶ。乳幼児の健やかな成長を促し、個々の表現活動を認め個性を伸ばしていくことが重要であり、演習を通して具体的な実践方法を学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	表現に関する保育内容について理解及び実践を行う。
教科書	保育所保育指針解説（フレーベル館）　絵本から劇遊びブレーメンの音楽隊　（ドレミ楽譜出版社
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者
授業計画	1 保育所保育指針「保育の目標」と領域「表現」のねらい及び内容 2 保育所保育指針のねらい及び内容（1歳以上３歳未満児） 3 保育所保育指針のねらい及び内容（３歳以上児） 4 保育所保育指針における乳児保育の３つの視点と領域「表現」 5 手遊び実践と記録 6 保育所保育指針「表現」内容①　手遊び実践と記録 7 自己表現実践（手話　歌　オペレッタ実践） 8 保育所保育指針「表現」内容②　手遊び実践と記録 9 保育所保育指針「表現」内容③　手遊び実践と記録 10 保育所保育指針「表現」内容④　手遊び実践と記録 11 手遊び発表 12 集団での表現実践① 13 集団での表現実践② 14 集団での表現実践③ 15 保育所保育指針　領域「表現」総括グループ討議
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と実技試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	乳児保育Ⅰ
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷、保育所・乳児院・家庭の現状を把握し、それらの果たす役割、担当する保育者としての役割を理解する。事例をもとに、保育士として必要な乳児保育の理論・知識、乳児期における大人の役割等を理解し保育現場での具体的課題を学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	乳児期における発育・発達を理解し、技術を習得する。
教科書	第1巻　保育原理（全国社会福祉協議会）　保育所保育指針解説（フレーベル館）
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者
授業計画	1 乳児保育の理念と歴史、役割 2 保育所における乳児保育の現状と課題 3 児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育の現状と課題 4 家庭的保育・小規模保育等における乳児保育の現状と課題 5 身体的発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」 6 社会的発達に関する視点「身近な人と気持ちが通じ合う」 7 情緒的発達に関する視点「身近なものと関わり完成が育つ」 8 乳児期の環境と人間関係 9 乳児期の全体的な計画と指導計画① 10 乳児期の全体的な計画と指導計画② 11 乳児保育の保育技術①　食事　沐浴 12 乳児保育の保育技術②　排泄 13 職員間の連動・協働 14 保護者との連携・協働 15 自治体や地域の関係機関との連携・協働
成績評価方法 （試験実施方法）	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	造形表現１
実務家教員授業	
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	演習授業内で使用する各課題での素材の特性を実際の作品制作の中で経験し、その経験の中から発達段階にある乳幼児の表現に対しての指導方法を学ぶ。子どもが自由に発想し制作する作品に対しての理解力や対応力を身につける。
授業の進め方	テキスト講義と実践的な演習により「知る」から「身に付く」へステップアップを図る。
達成目標	造形表現を通して子どもの遊び、表現力、想像力の向上が図れるように基本技法を習得する。
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	1 画材の特徴理解 2 水彩絵の具の扱い方、技法 3 色相環、3原色について 4 クレヨンの種類と年齢にあった選択① 5 クレヨンの種類と年齢にあった選択② 6 年齢に即した、はさみ・のりの使用法 7 表現技法①：貼り絵 8 表現技法②：顔の描き方(動物･子ども･大人) 9 表現技法③：日常生活で、目にする物の描き方 10 身近な素材利用（廃材） 11 発達に合わせた作成物とその指導法① 12 表現技法④：コラージュ 13 表現技法⑤：行事の絵 14 発達に合わせた制作物とその指導法② 15 発達に合わせた作成物とその指導法③
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と作品（制作物）により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	音楽とリズム
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	楽譜の読み方、音程、音階、和音、リズムなどの学びを活用し、音楽による基礎的な表現力を身につける。また、童謡や手遊びを題材に入れ、歌唱教育の技術を習得すると同時に身近な自然やものの音や音色について学ぶ。
授業の進め方	反復練習と効果測定により、確実な知識とスキルの定着を図る。
達成目標	音楽を通して子どもの身体表現、音楽表現等に関する知識・技術を習得する。
教科書	幼児のための音楽教育　（教育芸術社） ﾘｽﾞﾑ練習とｿﾙﾌｪｰｼﾞｭ１　（全音楽譜出版社） こどもの歌曲200選　（ドレミ楽譜出版社） ﾀﾞﾙｸﾛｰｽﾞ・ｼｽﾃﾑによるﾘﾄﾐｯｸ指導２［４歳児用］　（全音楽譜出版社）
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者
授業計画	1 子どもの遊びと音楽との関係 2 子どもの遊びの展開①（子どもを動かす歌） 3 子どもの遊びの展開②（弾き語り・和音遊び） 4 音楽表現①（弾き語り・リズム遊び） 5 音楽表現②（弾き語り・子どもを動かす歌） 6 音楽表現③（弾き語り・和音遊び） 7 音楽実践・発表（子どもを動かす歌） 8 リズム遊戯の環境構成 9 季節の歌に合わせたリズム遊戯① 10 季節の歌に合わせたリズム遊戯② 11 季節の歌に合わせたリズム遊戯③ 12 音楽実践・発表（弾き語り） 13 音楽実践・発表（和音遊び） 14 音楽実践・発表（季節の歌に合わせたリズム遊戯） 15 復習(弾き語り・リズム遊び・遊戯)
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と実技試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	レクリエーション概論
実務家教員授業	
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	前期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	レクリエーションの意義と歴史・使命・仕組み等、制度について理解を深める。また、現代社会の中で、個人のライフスタイルや家族、地域社会の置かれている状況、少子高齢社会の課題を確認し、レクリエーション支援が必要とされる（活用ができる）具体的な場面について理解を深める。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	レクリエーションの基礎概論を習得し、子どもの発達に応じた事業計画・展開方法を習得する。
教科書	レクリエーション支援の基礎　（中央出版法規） おもちゃインストラクター入門　（日本グッド・トイ委員会）
特記	
授業計画	1 レクリエーションの意義 2 レクリエーション運動を支える制度 インストラクターの役割 3 ライフスタイルとレクリエーション 4 少子化の課題・地域とレクリエーション 5 レクリエーション事業について 6 ホスピタリティーとは 7 アイスブレーキングの基本技術 8 復習(意義、役割）事業計画、コミュニケーション 9 レクリエーションの基礎 10 レクリエーション支援論 11 レクリエーション事業論 12 復習(基礎・支援論・事業論)① 13 復習(基礎・支援論・事業論)② 14 復習(基礎・支援論・事業論)③ 15 復習(基礎・支援論・事業論)④
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	レクリエーション指導法
実務家教員授業	
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	通年
科目区分	選択
授業方法	演習
授業時間	６０時間
授業回数	３０回
授業概要	レクリエーションについて理解を深め、計画・実施・評価の方法、安全管理について学習し、演習を通して、そのあり方や、主体的に活動を起こす具体的な展開方法などを身につける。また、レクリエーション財（音楽、遊び、環境、様々な道具等）への理解を深め、レクリエーションの指導方法を習得する。
授業の進め方	反復練習と効果測定により、確実な知識とスキルの定着を図る。
達成目標	レクリエーション計画案の立案及び実践により、レクリエーション技術を習得する。
教科書	レクリエーション支援の基礎　（中央出版法規） おもちゃインストラクター入門（日本グッド・トイ委員会）
特記	
授業計画	1 アイスブレーキング体験 2 レクリエーション体験（子どもの遊び） 3 レクリエーション実技①(グループ) 4 レクリエーション実技②(グループ) 5 レクリエーション実技③(グループ) 6 計画案の作成① 7 計画案の作成② 8 計画案の作成③ 9 計画案に基づいた練習と修正① 10 計画案に基づいた練習と修正② 11 計画案に基づいた練習と修正③ 12 グループワーク 13 計画案に基づいた練習と修正④ 14 計画案に基づいた練習と修正⑤ 15 計画案に基づいた練習と修正⑥ 16 実技トレーニング及びチェック① 17 実技トレーニング及びチェック② 18 実技トレーニング及びチェック③ 19 実技トレーニング及びチェック④ 20 レクリエーション実践① 21 レクリエーション実践② 22 レクリエーション実践③ 23 レクリエーション体験(ウォークラリー)① 24 レクリエーション体験(ウォークラリー)② 25 ウォークラリー　コース作成　視察 26 ウォークラリー　ポイント決定 27 ウォークラリー　コース決定 28 ウォークラリー　計画案完成 29 ウォークラリー　計画案修正 30 ウォークラリー　計画案に基づく体験
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と実技試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	こどもと音楽
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	前期
科目区分	選択２
授業方法	講義
授業時間	１５時間
授業回数	８回
授業概要	音楽理論の基礎を学習する。楽譜の読み方、音程、音階、和音、こどもにとっての音楽の必要性などを学び、音楽の基礎的な力を身に付ける。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	保育者として必要な音楽理論、和音やコードを理解し、身に付ける。
教科書	わかりやすい楽曲（音楽の友社）
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者
授業計画	1 楽譜の基礎知識 2 鍵盤、記号の基礎知識 3 音符や休符のリズムについて 4 拍子、弱起、指揮について 5 指づかいについて 6 ソルフェージュトレーニング 7 コードネーム、和音について 8 奏法の書き方、記号について 9 10 11 12 13 14 15
成績評価方法 （試験実施方法）	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	鍵盤奏法の基礎
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	通年
科目区分	選択
授業方法	演習
授業時間	６０時間
授業回数	３０回
授業概要	音楽を通し、表現による情操を養うことを目的として、ピアノや電子楽器などを用い、鍵盤奏法の技術を習得する。また、保育現場で必要な鍵盤楽器の基礎的な知識及び技術などを学ぶとともに、入学以前の音楽経験に応じた個々の技術レベルに沿った学習を行なう。
授業の進め方	反復練習と効果測定により、確実な知識とスキルの定着を図る。
達成目標	保育現場で必要とされるピアノ演奏、童謡の弾き語りができる。
教科書	幼児のための音楽教育（教育芸術社） ﾘｽﾞﾑ練習とｿﾙﾌｪｰｼﾞｭ1（全音楽譜出版社） わかりやすい楽典（音楽の友社） こどもの歌曲200選（ドレミ楽譜出版社）
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者
授業計画	1 ピアノ「童謡」①　リズム① 2 ピアノ「童謡」②　リズム② 3 ピアノ「童謡」③　リズム③ 4 ピアノ「童謡」④　リズム④ 5 ピアノ「童謡」⑤　リズム⑤ 6 ピアノ「童謡」⑥　リズム⑥ 7 ピアノ「童謡」⑦　リズム⑦ 8 ピアノ「童謡」⑧　リズム⑧ 9 ピアノ「童謡」⑨　リズム⑨ 10 ピアノ「童謡」⑩　リズム⑩ 11 ピアノ「童謡」⑪　リズム⑪ 12 ピアノ「童謡」⑫　リズム⑫ 13 ピアノ「童謡」⑬　リズム⑬ 14 ピアノ「童謡」⑭　リズム⑭ 15 ピアノ「童謡」⑮　リズム⑮ 16 ピアノ「童謡」⑯　リズム⑯ 17 ピアノ「童謡」⑰　リズム⑰ 18 ピアノ「童謡」⑱　リズム⑱ 19 ピアノ「季節の曲」①　リズム⑲ 20 ピアノ「季節の曲」②　リズム⑳ 21 ピアノ「季節の曲」③　リズム㉑ 22 ピアノ「季節の曲」④　リズム㉒ 23 ピアノ「季節の曲」⑤　リズム㉓ 24 ピアノ「季節の曲」⑥　リズム㉔ 25 ピアノ「季節の曲」⑦　リズム㉕ 26 ピアノ「季節の曲」⑧　リズム㉖ 27 ピアノ「季節の曲」⑨　リズム㉗ 28 ピアノ「季節の曲」⑩　リズム㉘ 29 ピアノ「季節の曲」⑪　リズム㉙ 30 ピアノ・リズム課題復習
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と実技試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	保育実習Ⅰ①
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	実習
授業時間	８０時間
授業回数	
授業概要	保育所の生活に参画し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能と保育士の職務、関連職員との連携について理解を深める。また、現場で直接学べる貴重な時間であることを意識し、実践を通じて保育内容や環境への理解、保育計画と記録の重要性への理解を深める機会とする。
授業の進め方	有識者の指導を基に、より実践的な知識を学ぶ。
達成目標	保育所での実習を通して子どもの保育及び保護者支援について総合的に理解する。 保育計画、観察、記録、評価について理解する。
教科書	保育実習簿（学校法人　大原学園）
特記	実習担当者は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者。また、実習指導者は保育所の現役職員。
授業計画	1. 保育所の役割と機能 （1）保育所の生活と一日の流れ （2）保育所保育指針の理解と保育の展開 2. 子ども理解 （1）子どもの観察とその記録による理解 （2）子どもの発達過程の理解 （3）子どもへの援助やかかわり 3. 保育内容・保育環境 （1）保育の計画に基づく保育内容 （2）子どもの発達過程に応じた保育内容 （3）子どもの生活や遊びと環境構成 （4）子どもの健康と安全 4. 保育の計画、観察、記録 （1）全体的な計画と指導計画及び評価の理解 （2）記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 （1）保育士の業務内容 （2）職員間の役割分担や連携 （3）保育士の役割と職業倫理
成績評価方法 （試験実施方法）	実習内容・実習簿評価により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	保育実習指導Ⅰ①
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	保育実習を円滑に進めるための知識・技術・態度について学ぶ。実習の意義・目的、実習内容並びに実習日誌の書き方、乳幼児保育の理解、実習生としての基本的な心構えや姿勢を習得する。また、事後指導として、実習体験に基づきグループ討議等を行い、施設に対する認識を深めると同時に、実習態度を振り返り、改善すべき点を見出す。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	保育実習の意義を理解し、実習に向けての目標設定を行う。 実習の計画、実践、観察、記録、評価について理解し、自信をもって実習に取り組めるようにする。
教科書	実習の記録と指導案　（ひかりのくに）、第9巻（全国社会福祉協議会）　保育専門職と保育実践、保育実習簿（学校法人　大原学園）
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者
授業計画	1 保育実習の概要・意義・目的 2 保育所における保育実習内容の理解 3 保育実習へ向けての課題設定 4 実習生としての心構え 5 実習におけるプライバシー保護と守秘義務 6 実習マナー① 7 実習マナー② 8 実習計画について 9 実習計画に基づく保育実践 10 実習日誌の記録の取り方① 11 実習日誌の記録の取り方② 12 実習日誌の記録の取り方③ 13 復習（目的・課題・マナー・日誌） 14 事後指導（総括・反省・自己評価） 15 事後指導（課題・学習目標）
成績評価方法 （試験実施方法）	出席と実技試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	コミュニケーション論
実務家教員授業	
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	前期
科目区分	選択
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	円滑な人間関係の基本となるコミュニケーションスキルを学び、演習を通してスキルの向上を図る。その上で、幼児期から児童期への発達段階に応じたコミュニケーションスキル身に付けるための知識や技術を習得する。
授業の進め方	テキストによる講義と演習により、知識・スキルの定着を図る。
達成目標	保育者として自己表現ができるようになる。
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	1 コミュニケーションとは 2 コミュニケーションの必要性 3 自己紹介① 4 自己分析① 5 自己分析② 6 他己紹介① 7 他己紹介② 8 他己分析① 9 自己の長所の抽出① 10 自己の長所の抽出② 11 会話技術の向上（ロールプレー）① 12 会話技術の向上（ロールプレー）② 13 会話技術の向上（ロールプレー）③ 14 幼児との関わり① 15 幼児との関わり②
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と実技試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	コミュニケーション論Ⅱ
実務家教員授業	
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	後期
科目区分	選択
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	保育園をイメージし、職場でのコミュニケーションについて具体的な場面を設定し、ロールプレイを通して実践しながら、TPOに合わせたコミュニケーションについて考える。
授業の進め方	テキストによる講義と演習により、知識・スキルの定着を図る。
達成目標	子どもだけではなく、保護者や保育園職員と円滑なコミュニケーションが取れる。
教科書	保育所保育指針解説（フレーベル館）　　オリジナルテキスト
特記	
授業計画	1 保育現場でのコミュニケーションとは 2 コミュニケーションをとる対象者 3 幼児とのコミュニケーションポイント 4 幼児とのコミュニケーション実践① 5 幼児とのコミュニケーション実践② 6 幼児とのコミュニケーション実践③ 7 保護者とのコミュニケーションポイント 8 保護者とのコミュニケーション実践① 9 保護者とのコミュニケーション実践② 10 保護者とのコミュニケーション実践③ 11 保護者とのコミュニケーション実践④ 12 保育職員とのコミュニケーションポイント 13 保育職員とのコミュニケーション実践① 14 保育職員とのコミュニケーション実践② 15 来客とのコミュニケーション実践
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と実技試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	キャリア教育Ⅰ
実務家教員授業	
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	通年
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	社会人を意識し社会に求められるスキルを学習する。社会人になること、社会の仕組み及び基礎学力を向上させる学習を行う。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	社会人としての基本的な計算力を身につける。
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	1 「教えること」と「学ぶこと」 2 幼児期の学びの基盤 3 保育者間における子ども理解のずれの修正 4 幼保小の円滑な連携 5 家庭との連携 6 地域との連携 7 保育におけるカウンセリングマインド 8 基本的な生活習慣を育む支援する 9 健やかな育ちのための支援 10 園生活に困難を抱える子どもの支援① 11 園生活に困難を抱える子どもの支援② 12 園生活に困難を抱える子どもの支援③ 13 事例研究①グループディスカッション 14 事例研究②グループディスカッション 15 事例研究③グループディスカッション
成績評価方法 （試験実施方法）	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	キャリア教育Ⅱ
実務家教員授業	
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	通年
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	社会人としての一般常識（文章理解・文章作成、現代社会、政治、経済）について学習する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	社会人としての基本的な社会常識を身につける。
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	1 教養科目の基礎①（文書理解・文書作成） 2 教養科目の基礎②（文書理解・文書作成） 3 教養科目の基礎③（文書理解・文書作成） 4 教養科目の基礎④（文書理解・文書作成） 5 教養科目の基礎⑤（現代社会） 6 教養科目の基礎⑥（現代社会） 7 教養科目の基礎⑦（現代社会） 8 教養科目の基礎⑧（現代社会） 9 教養科目の基礎⑨（現代社会） 10 教養科目の基礎⑩（政治） 11 教養科目の基礎⑪（政治） 12 教養科目の基礎⑫（政治） 13 教養科目の基礎⑬（経済） 14 教養科目の基礎⑭（経済） 15 教養科目の基礎⑮（経済）
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	キャリア教育Ⅲ	
実務家教員授業		
学部・学科	こども保育学科	
履修年次	１年次	
開講学期	後期	
科目区分	選択	
授業方法	講義	
授業時間	３０時間	
授業回数	１５回	
授業概要	社会人としての一般常識（日本の歴史、日本の伝統的な行事、日本の習慣、世界の文化）について学習する。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。	
達成目標	保育者として日本の文化を子どもにわかりやすく伝えらえるようになる。	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	1	教養科目の基礎①（日本の歴史）
	2	教養科目の基礎②（日本の歴史）
	3	教養科目の基礎③（日本の歴史）
	4	教養科目の基礎④（日本の歴史）
	5	教養科目の基礎⑤（日本の歴史）
	6	教養科目の基礎⑥（日本の伝統的な行事）
	7	教養科目の基礎⑦（日本の伝統的な行事）
	8	教養科目の基礎⑧（日本の伝統的な行事）
	9	教養科目の基礎⑨（日本の伝統的な行事）
	10	教養科目の基礎⑩（日本の伝統的な行事）
	11	教養科目の基礎⑪（日本の習慣）
	12	教養科目の基礎⑫（日本の習慣）
	13	教養科目の基礎⑬（日本の習慣）
	14	教養科目の基礎⑭（世界の文化）
	15	教養科目の基礎⑮（世界の文化）
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。	
備考		

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	保育インターンシップⅠ
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	前期
科目区分	選択
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	保育所や児童福祉施設でのインターンシップを通じて、社会人として組織に参加・貢献する経験を積み、「保育士の仕事」を理解する。
授業の進め方	有識者の指導を基に、より実践的な知識を学ぶ。
達成目標	保育の流れを体験から理解し、自ら行動できるようになる。
教科書	オリジナルテキスト
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者。また、実習指導者は保育所又は児童福祉施設の現役職員。
授業計画	1 1.インターンシップ・オリエンテーション 2 インターンシップの目的、参加への心構え 3 インターンシップの概要 4 インターンシップまでの準備事項の確認 5 2.インターンシップ 6 （１）観察 7 保育所の１日の流れの理解 8 子どもの発達過程の理解 9 保育者と子どものかかわり方の理解①（基本的な関わり方） 10 保育職の業務の理解①（基本的業務の理解） 11 職場の理解 12 （２）体験 13 子どもへの援助①（こどもと一緒に遊びに参加） 14 保育専門職との交流①（社会人として基本的なｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝをとる） 15 3.振り返り 発表会形式により実施
成績評価方法 (試験実施方法)	出席とレポートにより評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	保育インターンシップⅡ
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	１年次
開講学期	後期
科目区分	選択
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	保育現場という実社会を経験しながら、社会人としての常識的行動や社会人としての心構えなどＯＪＴにて体得する。
授業の進め方	有識者の指導を基に、より実践的な知識を学ぶ。
達成目標	保育の流れを体験から理解し、保育士の動きを予測しサポートできる。
教科書	オリジナルテキスト
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者。また、実習指導者は保育所又は児童福祉施設の現役職員。
授業計画	1 1.インターンシップ・オリエンテーション 2 インターンシップの目的、参加への心構え 3 インターンシップの概要 4 インターンシップまでの準備事項の確認 5 2.インターンシップ 6 (1)観察 7 環境設定（安全面、健康面、衛生面）についての理解 8 保育技術の理解（手遊び、絵本の読み聞かせ、ピアノの効率的使用方法） 9 保育者と子どものかかわり方の理解②（年齢別対応方法、乳児とのかかわり方） 10 (2)体験 11 子どもへの援助②（こどもと一緒に遊びに参加し、年齢別の興味、関心事を知る） 12 保育専門職との交流②（職業の魅力、やりがいについて話を聞く） 13 (3)その他 14 机上の学習だけではわからない保育専門職としての業務を観察・体験する 15 3.振り返り 発表会形式により実施
成績評価方法 (試験実施方法)	出席とレポートにより評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	教育原理
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	２年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	教育の目的・内容・方法及び子ども家庭福祉との関連性について理解するとともに、教育に関する基礎的概念、教育活動における実践原理を体系的に学ぶ。また、生涯学習時代のあり方についても触れる。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	教育の基本概念および教育活動における実践原理を理解する。
教科書	第2巻　教育原理（全国社会福祉協議会）
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者
授業計画	1 保育者になるための教育と学びについて 2 教育の意義と目的について 3 保育者の役割について 4 教育の歴史(諸外国) 5 復習(教育の意義目的、保育者の役割) 6 教育の歴史(日本) 7 教育制度の仕組み 8 教育課程・全体的な計画について 9 遊びと援助のあり方について 10 自己評価・第三者評価まで 11 今日の教育を考える(グループ学習) 12 今日の教育を考える(グループ学習) 13 今日の教育を考える(グループ学習) 14 今日の教育を考える(グループ学習) 15 復習(教育の歴史と制度、保育形態、評価)
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	子ども家庭支援論
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	２年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解し、子ども家庭支援の現状や課題について学ぶ。子育て家庭のニーズを理解し、保育士として専門性を生かした多様な支援の展開や関係機関との連携について学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	子ども家庭支援の意義や役割及び支援体制について理解し、支援の展開と関係機関との連絡について理解する。
教科書	第10巻　子ども家庭支援論（全国社会福祉協議会）
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者
授業計画	1 子ども家庭支援の意義と必要性 2 子ども家庭支援の目的と機能 3 子育て支援施設・次世代育成支援施設の推進 4 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 5 保育の専門性を生かした子ども家庭支援とその意義 6 子どもの育ちの喜びの共有 7 保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 8 保育士に求められる基本的態度（受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等） 9 家庭の状況に応じた支援 10 地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力 11 子ども家庭支援の内容と対象 12 保育所等を利用する子どもの過程への支援 13 地域の子育て家庭への支援 14 要保護児童等及びその家庭に対する支援 15 子育て支援に関する課題と展望
成績評価方法 （試験実施方法）	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	子どもの食と栄養
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	２年次
開講学期	通年
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	６０時間
授業回数	３０回
授業概要	養護及び教育の一体性を踏まえた子どもの食生活、栄養に関する基本的知識を体系的に理解するとともに、特に保育の実際との関連において実践的な知識・理解を深める。また、特別な配慮を要する子どもの食と栄養についても理解する。
授業の進め方	テキストによる講義と実践的な演習により、知識・技術の定着を図る。
達成目標	子どもの食生活、栄養に関する知識を習得する。
教科書	第8巻　子どもの食と栄養（全国社会福祉協議会）
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者
授業計画	1 子どもの発育・発達と支援 2 栄養・食品の知識 3 栄養素について 4 栄養素の働き 5 小児期の食べ物、各種食品の栄養的特徴 6 日本人の食事摂取基準 7 望ましい献立と食べ方 8 復習（子どもの発育・発達、栄養素、食事摂取基準） 9 妊娠・胎児期の食生活 10 乳児期の食生活 11 離乳期の栄養① 12 離乳期の栄養② 13 幼児期の食べ物① 14 幼児期の食べ物② 15 幼児期の食べ物③ 16 幼児期の食べ物④ 17 児童福祉施設における食事と栄養① 18 児童福祉施設における食事と栄養② 19 児童福祉施設における食事と栄養③ 20 児童福祉施設における食事と栄養④ 21 障害のある子どもの食生活 22 子どもの食生活と配慮 23 子どもを取り巻く食環境 24 食育の基本 25 食育の実践① 26 食育の実践② 27 食育の実践③ 28 食育の実践④ 29 食育実践及び食を通した保護者への支援 30 復習（幼児期の食べ物、児童福祉施設の食と栄養、食育の基本）
成績評価方法 （試験実施方法）	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	こども学概論
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	２年次
開講学期	前期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	現代社会の中で、子どもに関わる具体的事例をもとに多角的な視点により「子ども」について学習する。子どもを取り巻く社会（家庭や保育所、学校、地域、制度など）で起こる様々な事象から広く子どもの理解を深める。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	こどもの世界を理解し、子どもの発達状況に応じた援助の手法を習得する。
教科書	子ども家庭支援の心理学　中央法規出版㈱ こども学概論私の子ども学ノート　わかば社
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者
授業計画	1　子ども学とは 2　子どもの発達①（乳児期） 3　子どもの発達②（幼児期） 4　子どもの発達③（学童期） 5　子どもの世界の理解① 6　子どもの世界の理解② 7　事例から見る子どもが抱える問題① 8　事例から見る子どもが抱える問題② 9　事例から見る子どもが抱える問題③ 10　事例から見る子どもが抱える問題④ 11　事例から見る子どもが抱える問題⑤ 12　子どもが抱える問題に対する対応方法① 13　子どもが抱える問題に対する対応方法② 14　子どもの悩みに関する対応方法① 15　子どもの悩みに関する対応方法②
成績評価方法 （試験実施方法）	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	子どもの理解と援助Ⅱ
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	２年次
開講学期	前期
科目区分	選択
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	子どもの理解と援助で学習した内容を更に掘り下げ、子どもを理解するための具体的方法や保育士としての援助や態度の基本について理解する。子どもを理解するための話し方や共感的態度、保護者との連携方法等を学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	子どもの発達の状況に応じた専門職としての応対方法を理解し行動できるようにする。
教科書	第6巻子どもの発達理解と援助（全国社会福祉協議会）
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者
授業計画	1 子どもに対する共感的理解について① 2 子どもに対する共感的理解について② 3 子どもに対する共感的理解について③ 4 子どもを理解する視点を考える① 5 子どもを理解する視点を考える② 6 子どもを理解する視点を考える③ 7 子ども相互の関わりと関係づくりを築くための保育士の働きかけ① 8 子ども相互の関わりと関係づくりを築くための保育士の働きかけ② 9 子ども相互の関わりと関係づくりを築くための保育士の働きかけ③ 10 特別な配慮を要する子どもの理解と援助について① 11 特別な配慮を要する子どもの理解と援助について② 12 特別な配慮を要する子どもの理解と援助について③ 13 子育て支援・家庭支援における子どもの理解① 14 子育て支援・家庭支援における子どもの理解② 15 子育て支援・家庭支援における子どもの理解③
成績評価方法 （試験実施方法）	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	保育の計画と評価
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	２年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	園生活の代表的な保育内容、あるいは保育活動を例にとりながら、保育の計画と評価の基本を学ぶ。全体的な計画と指導計画の意義と方法を理解し、保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の基本を押さえ、子どもの理解に基づいて計画を立てる際の要件を学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	保育課程及び指導計画を作成することができる。
教科書	第9巻　保育専門職と保育実践（全国社会福祉協議会）
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者
授業計画	1 保育の基本と計画・保育の計画の歴史 2 子ども理解に基づく保育過程の循環 3 発達過程（子どもの発達の特徴と留意点）① 4 発達過程（子どもの発達の特徴と留意点）② 5 発達過程（子どもの発達の特徴と留意点）③ 6 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格と内容 7 全体的な計画と指導計画の関係制 8 長期の指導計画作成の手順 9 指導計画作成① 10 指導計画作成② 11 短期の指導計画作成の基本事項① 12 短期の指導計画作成の基本事項② 13 部分案作成① 14 部分案作成② 15 計画・実践、記録、省察、評価、改善の過程の理解
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	乳児保育Ⅱ
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	２年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。乳児保育の計画、環境構成、記録等について具体的に理解し、乳児が安全と情緒の安定を図るための配慮について具体的に学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義と実践的な演習により、知識・技術の定着を図る。
達成目標	乳児保育の現状・課題を理解し、指導計画を作成できるようにする。
教科書	第1巻　保育原理（全国社会福祉協議会）
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者
授業計画	1 乳児保育の基本 2 子どもと保育士等との関係の重要性 3 子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり方 4 乳児期の児童文化と遊び①（フィールドワーク） 5 乳児期の児童文化と遊び②（フィールドワーク） 6 乳児期の児童文化と遊び③（フィールドワーク） 7 乳児期の児童文化と遊び④（フィールドワーク） 8 乳児期の児童文化と遊び⑤（フィールドワーク） 9 乳児期の児童文化と遊び⑤（フィールドワーク） 10 指導計画作成の準備 11 指導計画作成① 12 指導計画作成② 13 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 14 さまざまな発達の考え方・発達の特徴 15 指導計画作成③
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と実技試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	子どもの健康と安全
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	２年次
開講学期	通年
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ感染症対策や体調不良等に対する対応方法、衛生管理並びに安全管理等を学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義と実践的な演習により、知識・技術の定着を図る。
達成目標	子どもの健康、事故予防、疾病対策、安全管理について理解する。
教科書	第7巻　子どもの健康と安全（全国社会福祉協議会）
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者
授業計画	1 子どもの健康と保育にかかわる保健活動 2 子どもの健康観察方法① 3 子どもの健康観察方法② 4 心身の発育・発達を促す保健活動 5 心身の発育・発達を促す環境 6 心の健康問題や地域保健活動 7 健康観察、小児の生理機能の総まとめ 8 事故防止及び健康安全管理　事故 9 事故防止及び健康安全管理　集団傾向 10 救急蘇生法の種類と概要 11 子どもの一時救命処置 12 応急手当ての方法 13 感染症の予防と対策① 14 感染症の予防と対策② 15 子どもの健康及び安全の管理に関する社会的資源との連携
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	障害児保育
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	２年次
開講学期	通年
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	６０時間
授業回数	３０回
授業概要	障害児保育の理念や歴史的変遷について学び、障害児及び特別な配慮を要する子どもの保育や家庭の支援について理解する。その上で、具体的援助の方法、環境構成、保育計画について理解を深める。また、各関係機関との連携及び保健・医療・福祉・教育等の現状と課題についても理解を深める。
授業の進め方	テキストによる講義と実践的な演習により、知識・技術の定着を図る。
達成目標	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者
教科書	第5巻　社会的養護と障害児保育（全国社会福祉協議会）
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関
授業計画	1 障害のある子どもの保育の考え方（理念、歴史的変遷） 2 障害のある子どもの発達 3 対象別にみた障害の理解（肢体不自由・知的障害） 4 対象別にみた障害の理解（広汎性発達障害） 5 対象別にみた障害の理解（AD/HD　LD） 6 対象別にみた障害の理解（運動障害他） 7 対象別にみた障害の理解（聴覚障害他） 8 対象別の障害等のまとめ 9 気になる子どもの理解 10 神経性習癖・登園拒否・未熟児 11 障害のある子どもの保育の方法 12 遊び・集団活動への援助 13 基本的生活習慣の援助 14 感覚統合の遊び 15 個別援助集団援助のまとめ 16 障害のある子どもの保育と指導計画 17 統合保育の指導計画の作成 18 個別の支援計画 19 障害のある子どもの保育の実践 20 障害のある子どもの保育の実際 21 障害のある子どもの保育の評価 22 小学校との連携 23 指導計画から評価までのまとめ 24 保育場面の事例演習1 25 保育場面の事例演習2 26 障害のある子どもの保護者への支援 27 障害のある子どもの保護者への支援 28 障害のある子どもの保育関連施策 29 障害のある子どもにかかわる教育施策 30 保護者支援から施策までのまとめ
成績評価方法 （試験実施方法）	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	社会的養護Ⅱ
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	２年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基本的な内容について具体的に理解し、かつ、施設養護及び家庭養護の実際についても理解を深める。また、社会的養護における計画、記録、自己評価を理解し、相談援助の方法・技術や子ども虐待防止について学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	社会的養護について理解し、個々の状況に応じた支援計画の策定ができるようにする。
教科書	第5巻　社会的養護と障害児保育（全国社会福祉協議会）
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者
授業計画	1 子どもの権利擁護 2 社会的養護における子どもの理解 3 社会的養護の内容①　日常生活支援 4 社会的養護の内容②　心理的支援 5 社会的養護の内容③　自立支援 6 施設養護の生活特性及び実際①　乳児院等 7 施設養護の生活特性及び実際②　障害児施設等 8 家庭養護の生活特性及び実際 9 アセスメントと個別支援計画の作成 10 記録及び自己評価 11 保育の専門性に関わる知識・技術とその実践 12 社会的養護におけるソーシャルワーク 13 社会的養護に関わる相談支援の知識・技術とその実践 14 社会的養護における家庭支援 15 社会的養護の課題と展望
成績評価方法 （試験実施方法）	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	子育て支援
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	２年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、その特性と展開を具体的に理解する。保育士の行う子育て支援とその実際を実践事例等を通して具体的に理解する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	保育相談支援の具体的支援方法及び技法を習得する。
教科書	第10巻　子ども家庭支援論（全国社会福祉協議会）
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者
授業計画	1 子どもの保育とともに行う保護者の支援 2 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成 3 保護者や家庭の抱える支援のニーズへのきずきと多面的な理解 4 子ども及び保護者の状況・状態の把握 5 支援の計画と環境の構成 6 支援の実践・記録・評価・カンファレンス 7 職員間の連携・協働 8 社会的資源の活用と自治体・関連機関や専門職との連携・協働 9 保育所等における支援 10 地域の子育て家庭に対する支援 11 障害のある子ども及びその家庭に対する支援 12 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援 13 子どもの虐待の予防と対応 14 要保護児童等の過程に対する支援 15 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	保育方法論
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	２年次
開講学期	通年
科目区分	選択
授業方法	演習
授業時間	６０時間
授業回数	３０回
授業概要	保育所保育指針に示される「保育の方法」の基本理念を踏まえつつ、保育所における具体的な実践例の中から学びを深める。理論と実践との接点や「乳幼児の発達」「環境による保育」という観点から、演習を通して保育方法論を基に保育士に必要な知識・技能・態度を習得する。
授業の進め方	テキストによる講義と実践的な演習により、知識・技術の定着を図る。
達成目標	様々な場面に応じて適切な保育方法がとれるよう知識・技術を習得する。
教科書	実習の記録と指導案　（ひかりのくに）
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者
授業計画	1 子ども理解と保育のつながり 2 保育の活動内容① 3 保育の活動内容② 4 保育の活動内容③ 5 場面を想定した保育の活動内容の実践① 6 場面を想定して保育の活動内容の実践② 7 場面を想定した保育の活動内容の実践③ 8 保育の活動内容の改善 9 指導案の作成① 10 指導案の作成② 11 指導案の作成③ 12 指導案の作成④ 13 指導案の作成⑤ 14 指導案の作成⑥ 15 指導案の作成⑦ 16 指導案に基づく実技チェック① 17 指導案に基づく実技チェック② 18 指導案に基づく実技チェック③ 19 指導案に基づく実技チェック④ 20 指導案に基づく実技チェック⑤ 21 指導案に基づく実技チェック⑥ 22 指導案に基づく実技チェック⑦ 23 指導案に基づく実技チェック⑧ 24 指導案に基づく実技チェック⑨ 25 指導案に基づく実技チェック⑩ 26 指導案に基づく実技チェック⑪ 27 指導案に基づく実技チェック⑫ 28 指導案に基づく実技チェック⑬ 29 指導案に基づく実技チェック⑭ 30 指導案に基づく実技チェック⑮
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と実技試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	言語表現
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	２年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	言語表現に関する基礎を理解し、発達段階に応じた教材の選び方を学ぶ。また、演習を通し絵本・紙芝居の読み聞かせ、素話の技術などを身につける。
授業の進め方	テキストによる講義と実践的な演習により、知識・技術の定着を図る。
達成目標	子どもの発達段階に応じた言語表現の技術を身につける。
教科書	保育所保育指針解説（フレーベル館）
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者
授業計画	1 言語表現のねらいと内容 2 子どもの言語の発達状況について 3 年齢に適した言語について 4 年齢に適した教材選び 5 子どもの言語活動についての計画① 6 子どもの言語活動についての計画② 7 子どもの言語活動についての計画③ 8 言語活動を促す教材作成① 9 言語活動を促す教材作成② 10 言語活動を促す教材作成③ 11 子どもの言語活動の実践① 12 子どもの言語活動の実践② 13 子どもの言語活動の実践③ 14 グループ発表 15 発表（総評・振り返り・反省）
成績評価方法 （試験実施方法）	出席と実技試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	身体表現
実務家教員授業	
学部・学科	こども保育学科
履修年次	２年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	子どもの発達と運動機能に関する知識を学び、演習を通して、運動遊びの実践や、見立て遊びやごっこ遊び、劇遊びなど遊びの教育的意味について理解を深める。
授業の進め方	テキストによる講義と実践的な演習により、知識・技術の定着を図る。
達成目標	子どもの発達状況、運動機能について理解し、発達を促す運動遊びの手法を習得する。
教科書	保育所保育指針解説（フレーベル館）
特記	
授業計画	1 子どもと遊び 2 身体機能と運動発達の特徴 3 基本動作（あるく、はう、くぐる） 4 基本動作（ころがる、のぼり、おり） 5 基本動作（はしる、とぶ、ゆれる） 6 基本動作（おす、ひく、まわる） 7 基本動作（ころがす、なげる、とる） 8 基本動作（うつ、つく、ける） 9 リズム（ステップ、リズム遊び） 10 ボール遊び① 11 運動遊び（ぞうさんのお散歩、くまさんくまさん） 12 「教材等の活用及び保育の展開」　グループ活動（遊びの計画①） 13 「教材等の活用及び保育の展開」　グループ活動（遊びの計画②） 14 ボール遊び② 15 グループ発表（遊びの計画）
成績評価方法 （試験実施方法）	出席と実技試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	小児体育
実務家教員授業	
学部・学科	こども保育学科
履修年次	２年次
開講学期	後期
科目区分	選択
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	「楽しむ」を前提とした体育について、各種目についてのルールを理解し実践する。それらを発達段階に沿った「楽しい運動遊び」への変換方法を考察し体験する。
授業の進め方	テキストによる講義と実践的な演習により、知識・技術の定着を図る。
達成目標	保育者として、その子どもの年齢、発達状況に応じた適切な運動・遊びを理解する。
教科書	レクリエーション支援の基礎　（中央出版法規）
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に
授業計画	1 現在の子どもを取り巻く運動環境 2 運動と健康のつながり 3 各年齢に適した運動と効果① 4 各年齢に適した運動と効果② 5 各年齢に適した運動と効果③ 6 ボールを用いた運動遊び 7 フラフープを用いた運動遊び 8 大縄を用いた運動遊び 9 マット運動 10 チームスポーツ 11 指導案の作成① 12 指導案の作成② 13 指導案に基づく実技チェック① 14 指導案に基づく実技チェック② 15 指導案に基づく実技チェック③
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と実技試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	造形表現2
実務家教員授業	
学部・学科	こども保育学科
履修年次	２年次
開講学期	通年
科目区分	選択
授業方法	演習
授業時間	６０時間
授業回数	３０回
授業概要	物を作る活動・表現行為の中から、創作（表現）の喜びを味わう。また、保育者としての援助のあり方・教材研究などの基礎を学ぶための演習として、折り紙・製作・絵画などの手法を用いて、それらのものを体感することを目標とする。
授業の進め方	テキストによる講義と実践的な演習により、知識・技術の定着を図る。
達成目標	保育現場で必要となる造形の知識・技術を身に付け、様々な素材を活かした製作ができる。
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	1 絵の具を使った絵画（暖色・寒色） 2 絵の具を使った絵画（黒・白・灰色） 3 水彩技法（にじみ絵） 4 工作（切り紙）① 5 絵の具を使った絵画（純色・清色・濁色） 6 デッサン（静物） 7 糸引き絵 8 工作（廃材使用）① 9 絵の具を使った絵画（淡彩画） 10 和紙を使った貼り紙制作 11 デッサン（人物クロッキー） 12 油粘土制作（模刻） 13 版画（発泡スチロール版画） 14 立体絵作成（紙テープ） 15 工作（行事に合った） 16 デッサン（自画像） 17 紙粘土制作（動物） 18 絵の具とクレヨンを使った絵画 19 お面制作 20 ペンを使った絵画（細密画） 21 自然物を使った制作 22 工作（切り紙）② 23 工作（ステンドグラス） 24 版画（紙版画） 25 工作（廃材使用）② 26 工作（カラーダンボール使用） 27 マーブリング 28 紙粘土作り 29 年齢に合った制作① 30 年齢に合った制作②
成績評価方法 （試験実施方法）	出席と作品（制作物）により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	児童レクリエーション概論
実務家教員授業	
学部・学科	こども保育学科
履修年次	２年次
開講学期	後期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	形態別のレクリエーション技術について理解するとともに、演習も交えて児童の年齢に応じたレクリエーション方法（歌、集団ゲーム遊び、野外遊びなど）を学習する。また、四季を感じさせる童謡（合奏・合唱など）も身につける。
授業の進め方	テキストによる講義と実践的な演習により、知識・技術の定着を図る。
達成目標	子どもの年齢に応じたレクリエーションを理解し、集団ゲームや音楽遊び、童謡などの実践を通して子どもを楽しませるツールを習得する。
教科書	キャンプ指導者入門　社団法人日本キャンプ協会
特記	
授業計画	1 児童レクリエーションの目的と意義 2 年齢に応じたレクリエーション（歌）① 3 年齢に応じたレクリエーション（歌）② 4 年齢に応じたレクリエーション（集団遊び）① 5 年齢に応じたレクリエーション（集団遊び）② 6 年齢に応じたレクリエーション（野外活動）① 7 年齢に応じたレクリエーション（野外活動）② 8 年齢に応じたレクリエーション（野外活動）③ 9 レクリエーションにおける安全の考え方① 10 レクリエーションにおける安全の考え方② 11 レクリエーションにおける安全管理の実際① 12 レクリエーションにおける安全管理の実際② 13 児童レクリエーション実技（四季の童謡）① 14 児童レクリエーション実技（四季の童謡）② 15 復習（年齢毎のレクリエーション・安全管理・童謡）
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	音楽表現1
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	２年次
開講学期	前期
科目区分	選択
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	音楽やリズムを身体を通して感じ、考え、音楽表現に必要な技術とその方法論の基礎を学ぶ。また、保育の現場で活用する手遊びや歌遊び、身体創作表現など具体的な教材を通して、表現意欲を養い、創造性を豊かに実践力のある保育者としての資質能力を形成する。
授業の進め方	テキストによる講義と実践的な演習により、知識・技術の定着を図る。
達成目標	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者
教科書	幼児のための音楽教育（教育芸術社） ﾘｽﾞﾑ練習とｿﾙﾌｪｰｼﾞｭ1（全音楽譜出版社） こどもの歌曲200選（ドレミ楽譜出版社） ﾀﾞﾙｸﾛｰｽﾞｼｽﾃﾑによるﾘﾄﾐｯｸ指導（2）4歳児用
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者
授業計画	1 基礎リズムのリズム打ちとステップ① 2 基礎リズムのリズム打ちとステップ② 3 基礎リズム、音への即時反応① 4 基礎リズム、音への即時反応② 5 模倣活動を通して音の強弱を意識する① 6 模倣活動を通して音の強弱を意識する② 7 リズム、フレーズを認識する① 8 リズム、フレーズを認識する② 9 イメージによる身体表現 10 教材研究①（手遊び歌、童謡、教具） 11 教材研究②（指導案の作成） 12 教材研究③（使用教材作成） 13 課題研究① 14 課題研究② 15 課題発表
成績評価方法 （試験実施方法）	出席と実技試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	鍵盤奏法の応用
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	２年次
開講学期	通年
科目区分	選択
授業方法	演習
授業時間	６０時間
授業回数	３０回
授業概要	鍵盤奏法の基礎で学んだ技術を生かし、即興演奏法を身につけ、コードによる伴奏や楽曲の創作等ができるように、技術力の向上を目指す。また、弾き歌いを通し、保育者の基本技能を身につける。
授業の進め方	反復練習と効果測定により、確実な知識とスキルの定着を図る。
達成目標	保育現場で必要とされるピアノ演奏、童謡の弾き語りができる。 上級者においては、初見にて弾き歌いができる。
教科書	幼児のための音楽教育（教育芸術社） ﾘｽﾞﾑ練習とｿﾙﾌｪｰｼﾞｭ1（全音楽譜出版社） わかりやすい楽典（音楽の友社） こどもの歌曲200選（ドレミ楽譜出版社）
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者
授業計画	1 リズム合奏①、弾き歌い課題曲① 2 リズム合奏②、弾き歌い課題曲② 3 リズム合奏③、弾き歌い課題曲③ 4 リズム合奏④、弾き歌い課題曲④ 5 リズム合奏⑤、弾き歌い課題曲⑤ 6 リズム合奏⑥、弾き歌い課題曲⑥ 7 リズム合奏⑦、弾き歌い課題曲⑦ 8 リズム合奏⑧、弾き歌い課題曲⑧ 9 リズム合奏⑨、弾き歌い課題曲⑨ 10 リズム合奏⑩、弾き歌い課題曲⑩ 11 リズム合奏⑪、弾き歌い課題曲⑪ 12 リズム合奏⑫、弾き歌い課題曲⑫ 13 リズム合奏⑬、弾き歌い課題曲⑬ 14 リズム合奏⑭、弾き歌い課題曲⑭ 15 リズム合奏⑮、弾き歌い課題曲⑮ 16 リズム合奏⑯、弾き歌い課題曲⑯ 17 リズム合奏⑰、弾き歌い課題曲⑰ 18 リズム合奏⑱、弾き歌い課題曲⑱ 19 リズム合奏⑲、弾き歌い課題曲⑲ 20 リズム合奏⑳、弾き歌い課題曲⑳ 21 リズム合奏㉑、弾き歌い課題曲㉑ 22 リズム合奏㉒、弾き歌い課題曲㉒ 23 リズム合奏㉓、弾き歌い課題曲㉓ 24 リズム合奏㉔、弾き歌い課題曲㉔ 25 リズム合奏㉕、弾き歌い課題曲㉕ 26 リズム合奏㉖、弾き歌い課題曲㉖ 27 リズム合奏㉗、弾き歌い課題曲㉗ 28 リズム合奏㉘、弾き歌い課題曲㉘ 29 リズム合奏㉙、弾き歌い課題曲㉙ 30 リズム合奏㉚、弾き歌い課題曲㉚
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と実技試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	保育実習Ⅰ②
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	２年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	実習
授業時間	８０時間
授業回数	
授業概要	児童福祉施設等の生活に参画し、観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。子どもの心身の状況に応じた対応、生活環境への理解を深め、専門職としての保育士の役割と倫理を学ぶ。また、実習を通して支援計画、記録の重要性を理解する。
授業の進め方	有識者の指導を基に、より実践的な知識を学ぶ。
達成目標	児童福祉施設等での実習を通して子どもの保育及び保護者支援について総合的に理解する。 保育計画、観察、記録、評価について理解する。
教科書	施設実習簿（学校法人　大原学園）
特記	実習担当者は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者。また、実習指導者は保育所の現役職員。
授業計画	1. 施設の役割と機能 （1）施設における子どもの生活と保育士の支援や関わり （2）施設の役割と機能 2. 子ども理解 （1）子どもの観察とその記録 （2）個々の状態に応じた援助やかかわり 3. 施設における子どもの生活と環境 （1）計画に基づく活動や援助 （2）子どもの心身の状態に応じた対応 （3）子どもの活動と生活と環境 （4）健康管理、安全対策の理解 4. 計画と記録 （1）支援計画の理解と活用 （2）記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と倫理 （1）保育士の業務内容 （2）職員間の役割分担や連携 （3）保育士の役割と職業倫理
成績評価方法 (試験実施方法)	実習内容・実習簿評価により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	保育実習指導Ⅰ②
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	２年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	保育実習指導Ⅰ①を踏まえ、児童福祉施設実習に対する基本的な事項の確認と新たな実習課題の決定、課題達成に必要な準備を行なう。また、事後指導としては、実習体験に基づきグループ討議等を行い、施設に対する認識を深めると同時に、実習態度を振り返り、改善すべき点を見出す。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識・技術の定着を図る。
達成目標	保育実習の意義を理解し、実習に向けての目標設定を行う。 実習の計画、実践、観察、記録、評価について理解し、自信をもって実習に取り組めるようにする。
教科書	福祉施設実習ハンドブック（みらい社）、第9巻　保育専門職と保育実践（全国社会福祉協議会）、施設実習簿（学校法人　大原学園）
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者
授業計画	1 保育実習の意義・目的 2 児童福祉施設における実習内容の理解 3 児童福祉施設実習へ向けての課題 4 実習における子どもの人権と最善の利益 5 実習におけるプライバシー保護と守秘義務 6 実習マナー① 7 実習マナー② 8 実習計画について 9 実習計画に基づく保育実践 10 実習日誌の記録の取り方① 11 実習日誌の記録の取り方② 12 実習日誌の記録の取り方③ 13 復習（目的・課題・マナー・日誌） 14 事後指導（総括・反省・自己評価） 15 事後指導（課題・学習目標）
成績評価方法 （試験実施方法）	出席と実技試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	保育実習Ⅱ
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	２年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	実習
授業時間	８０時間
授業回数	
授業概要	保育所において、更に乳幼児への理解、保育士の職務、関連職員との連携等への理解を深める。実習では参加実習や部分実習、指導実習の段階を経て実践力を身につけ、責任実習を行なう。保育計画と指導計画、日案の理解と実践、乳幼児保育の担当、保育士としての役割･技術などを習得する。
授業の進め方	有識者の指導を基に、より実践的な知識を学ぶ。
達成目標	保育実習Ⅰの保育実践及び振り返りを踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に理解する。また、保育計画、観察、記録、評価について理解する。
教科書	保育実習簿（学校法人　大原学園）
特記	実習担当者は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者。また、実習指導者は保育所の現役職員。
授業計画	1. 保育所の役割や機能の具体的展開 （1）養護と教育が一体となって行われる保育 （2）保育所の社会的役割と責任 2. 観察に基づく保育理解 （1）子どもの心身の状態や活動の観察 （2）保育士等の動きや実践の観察 （3）保育所の生活の流れや展開の把握 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 （1）環境を通して行う保育、生活や遊びを通しての総合的に行う保育の理解 （2）入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 （3）地域社会との連携 4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 （1）保育過程に基づく指導計画の作成. 実践. 省察. 評価と保育の過程の理解 （2）作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5. 保育士の業務と職業倫理 （1）多様な保育の展開と保育士の業務 （2）多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6. 自己の課題の明確化
成績評価方法 （試験実施方法）	実習内容・実習簿評価により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	保育実習指導Ⅱ
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	２年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	保育実習指導Ｉを踏まえ、乳幼児に対する更なる理解を深める。これまでの実習を統括的に捉え、施設運営や保育士の職務内容を理解した上での保育(養護)技術を習得する。さらに、演習を通して保育所の意義と今日的役割を理解し、保育士を志すものとして自覚を高める。
授業の進め方	テキストによる講義と実践的な演習により、知識・技術の定着を図る。
達成目標	保育実習の意義を再度確認し、保育実習Ｉの反省を踏まえ、保育実践力の向上を図る。 実習の総括・自己評価により、保育に対する課題や認識を明確化する。
教科書	第9巻　保育専門職と保育実践（全国社会福祉協議会）、 改訂新版　実習の記録と指導案　（ひかりのくに）、 保育実習簿（学校法人　大原学園）
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者
授業計画	1　復習（保育実習の概要。意義・目的） 2　実習へ向けての自己課題設定 3　保育士の専門性を踏まえた実習について 4　保育士の職業倫理についての理解 5　事例：子どもの状態に応じた適切なかかわり① 6　事例：子どもの状態に応じた適切なかかわり② 7　事例：子どもの状態に応じた適切なかかわり③ 8　保育表現技術の実践① 9　保育表現技術の実践② 10　実習計画案作成① 11　実習計画案作成② 12　実習日誌の記録の取り方 13　復習（事例、計画案、日誌） 14　事後指導（総括・反省・自己評価） 15　事後指導（課題・学習目標）
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と実技試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	保育実践演習
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	２年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	６０時間
授業回数	３０回
授業概要	保育に関する教科目及び保育実習等の経験を踏まえ、自らの学びを振り返る。グループ討議や研究発表形式により様々な視点から今後の保育の課題等について学習すると同時に、自己の課題を明確にし、目指す保育士像や今後に向けた自己の取り組みについて考える。
授業の進め方	各種資料による講義とディスカッション、実践演習を通じ、専門的な知識と志向の定着を図る。
達成目標	保育に関する総合的な知識・技術を習得する。
教科書	保育所保育指針解説（フレーベル館） 今に生きる保育者論　（株）みらい
特記	実務家教員は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者
授業計画	1 保育士の意義と役割、職務内容 2 保育士の役割に基づいた活動とは① 3 保育士の役割に基づいた活動とは② 4 保育士の役割に基づいた活動とは③ 5 保育内容等の指導力について 6 行事運営のポイントと留意点 7 行事運営の計画① 8 行事運営の計画② 9 行事運営の計画③ 10 行事運営の準備物について 11 行事運営の準備物作成① 12 行事運営の準備物作成② 13 保育士の社会性、対人関係能力、児童理解について（グループ討議） 14 保育士の社会性、対人関係能力、児童理解についての発表 15 お便り作成（講義） 16 お便り作成① 17 お便り作成② 18 保育所児童保育要領 19 おたより帳 20 保育士の手作業 21 保育士の手作業実践 22 保護者会について（講義） 23 保護者会レジュメ作成 24 模擬保護者会 25 模擬保護者会 26 行事運営（講義） 27 行事運営①（作業） 28 行事運営②（作業） 29 行事運営③（発表） 30 保育士の資質能力の確認・まとめ
成績評価方法 （試験実施方法）	出席と実技試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	卒業研究
実務家教員授業	
学部・学科	こども保育学科
履修年次	２年次
開講学期	後期
科目区分	選択3
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	2年間の集大成として、各人がそれぞれにテーマを掲げ、自己の研究課題に取り組み、研究発表により成果を残す。
授業の進め方	有識者の指導を基に、より実践的な知識を学ぶ。
達成目標	自身の設定した研究課題に取り組み、発表を行う。
教科書	新・保育原理、幼児教育の原理、今に生きる保育者論　（株）みらい オリジナルテキスト
特記	
授業計画	1 卒業研究オリエンテーション 2 課題意識の確認と研究の進め方 3 個人別研究課題の設定 4 研究計画作成 5 調査・研究/個別指導① 6 調査・研究/個別指導② 7 調査・研究/個別指導③ 8 調査・研究/個別指導④ 9 研究経過中間報告会 10 研究計画検討及び修正 11 論文作成と進捗状況報告と修正① 12 論文作成と進捗状況報告と修正② 13 論文作成と進捗状況報告と修正③ 14 研究課題発表会① 15 研究課題発表会②
成績評価方法 (試験実施方法)	レポートと発表内容により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	コミュニケーション論Ⅲ
実務家教員授業	
学部・学科	こども保育学科
履修年次	２年次
開講学期	後期
科目区分	選択
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	福祉施設全般をイメージし、職場でのコミュニケーションについて具体的な場面を設定し、ロールプレイを通して実践しながら、TPOに合わせたコミュニケーションについて考える。
授業の進め方	テキストによる講義と演習により、知識・スキルの定着を図る。
達成目標	さまざまな対象者と円滑なコミュニケーションが取れる。
教科書	第5巻　社会的養護と障害児保育（全国社会福祉協議会）
特記	
授業計画	1 卒業研究オリエンテーション 2 課題意識の確認と研究の進め方 3 個人別研究課題の設定 4 研究計画作成 5 調査・研究/個別指導① 6 調査・研究/個別指導② 7 調査・研究/個別指導③ 8 調査・研究/個別指導④ 9 研究経過中間報告会 10 研究計画検討及び修正 11 論文作成と進捗状況報告と修正① 12 論文作成と進捗状況報告と修正② 13 論文作成と進捗状況報告と修正③ 14 研究課題発表会① 15 研究課題発表会②
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と実技試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	キャリア教育Ⅳ	
実務家教員授業		
学部・学科	こども保育学科	
履修年次	２年次	
開講学期	前期	
科目区分	選択	
授業方法	講義	
授業時間	３０時間	
授業回数	１５回	
授業概要	保育者として知っておくべき職業上の倫理観を理解する。保育者としての行動、責務、地域連携等について学ぶ。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。	
達成目標	保育者として日本の文化を子どもにわかりやすく伝えらえるようになる。	
教科書	第9巻　保育専門職と保育実践（全国社会福祉協議会）	
特記		
授業計画	1	1. 保育者としての行動①（倫理とは）
	2	2. 保育者としての行動②（保育士倫理綱領について①）
	3	3. 保育者としての行動③（保育士倫理綱領について②）
	4	4. 保育者としての行動④（ソーシャルネットワーク利用について①）
	5	5. 保育者としての行動⑤（ソーシャルネットワーク利用について②）
	6	6. 保育者としての責務①（人間性の向上について①）
	7	7. 保育者としての責務②（人間性の向上について②）
	8	8. 保育者としての責務③（人間性の向上について③）
	9	9. 保育者としての責務④（専門性の向上について①）
	10	10. 保育者としての責務⑤（専門性の向上について②）
	11	11. 地域との連携について①（地域子育て支援について）
	12	12. 地域との連携について②（地域の環境について）
	13	13. 地域との連携について③（社会福祉資源について①）
	14	14. 地域との連携について④（社会福祉資源について②）
	15	15. 地域との連携について⑤（社会福祉資源について③）
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。	
備考		

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	保育インターンシップⅢ
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	２年次
開講学期	前期
科目区分	選択
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	今までのインターンシップの経験と保育実習の経験をもとに、可能な限り様々な業務を経験する。また、保育の現状を理解し、多面的に保育現場を考察する。
授業の進め方	有識者の指導を基に、より実践的な知識を学ぶ。
達成目標	自ら課題を立て、その課題を意識しつつ行動できる。
教科書	オリジナルテキスト
特記	実習担当者は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者。また、実習指導者は保育所の現役職員。
授業計画	1 1.インターンシップ・オリエンテーション 2 インターンシップの目的、参加への心構え 3 インターンシップの概要 4 インターンシップまでの準備事項の確認 5 2.インターンシップ 6 （1）観察 7 地域子育て支援活動に関する取り組みの理解 8 延長保育等子育て支援事業に関する取り組みの理解 9 食育についての取り組みの理解 10 （2）体験 11 子どもへの援助③（手遊び、絵本の読み聞かせ、素話など設定保育の一部を経験す 12 保育専門職との交流③（現状の保育の課題、改善策について聞く） 13 （3）保育事務業務 14 指導計画や日常事務の見学 15 3.振り返り 発表会形式により実施
成績評価方法 (試験実施方法)	出席とレポートにより評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	保育インターンシップⅣ
実務家教員授業	○
学部・学科	こども保育学科
履修年次	２年次
開講学期	後期
科目区分	選択
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業回数	１５回
授業概要	保育インターンシップⅠ～Ⅲを踏まえ継続的に乳幼児と関わりながら、自らテーマを定め、そのテーマに合わせた乳幼児について観察・考察を行う。
授業の進め方	有識者の指導を基に、より実践的な知識を学ぶ。
達成目標	即戦力となる新人保育士と同等の行動ができる。
教科書	オリジナルテキスト
特記	実習担当者は、法令に基づく保育士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験を有する者。また、実習指導者は保育所の現役職員。
授業計画	1 1.インターンシップ・オリエンテーション 2 インターンシップの目的、参加への心構え 3 インターンシップの概要 4 インターンシップまでの準備事項の確認 5 2.インターンシップ (1)体験 6 インターンシップⅠ～Ⅲのすべての内容 7 (2)観察・考察 8 テーマを決定 9 園に相談の上、テーマを修正 10 園に相談の上、テーマに合致する乳幼児を決定 11 テーマに合わせ乳幼児を観察、考察を繰り返す 12 (3)その他 13 乳幼児の現状、障害児の受け入れについての理解（自閉症スペクトラム、ダウン症、 14 発達障害など、障害児についてや虐待についての現状を知る） 15 3.振り返り 発表会形式により実施 発表会形式により実施
成績評価方法 (試験実施方法)	出席とレポートにより評価する。
備考	